

2010.07.23 「金賢姫元死刑囚を国賓待遇する必要はない！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

本日 7 月 23 日、韓国から金賢姫（キム・ヒョンヒ）元死刑囚が来日して、横田めぐみさんのご両親をはじめとした拉致被害者家族と会われています。今日は、この問題についてお話をしたいと思います。

金賢姫元死刑囚は、1987 年に発生した大韓国航空機爆破事件の主犯であり、115 人もの民間人をテロ行為によって殺害した犯罪者であります。政治的な理由によって恩赦となり、元死刑囚という立場になっています。

このような人物を元総理である鳩山氏の別荘に招いて、国賓並の待遇をしているという、現政権の感覚に私は驚いています。そして、横田さんや、飯塚さんの家族とお会いしているわけですが、当然のことながら 20 数年前に事件を起こして以来、韓国政府に拘束されていたので、彼女から新しい情報など出てくる筈がありません。拉致問題解決の進展が望めないのは、最初から誰が考えても分かることです。では、なぜ今この方を日本にわざわざ招く必要があったのかといえば、民主党政権がパフォーマンスを演じるためです。このようなことをするくらいなら、北朝鮮に対して断固たる姿勢を取る方がよほど大事なことですし、その方が新たな進展があると思います。ところが、そのような決意の無いまま、金賢姫を日本に招致してしまったのです。

私は、それよりとても気になる発言がありました。それは選挙期間中、仙谷

内閣官房長官がいわゆる日韓基本条約を否定するような発言をしたことです。その要旨は、日韓基本条約が結ばれた時の韓国は、朴正熙大統領による軍事政権であり、これは民意を代表しているとはいえず、韓国に対する戦後の償いとしての保障は、未だ十分でないということです。特に、日韓併合 100 周年ということで新たな補償を念頭に置いているのでしょうか。金賢姫を国賓並に招いてパフォーマンスをしているのも、何か通底するものがあるのではないかと勘繰らざるを得ません。

いずれにしても、仙谷内閣官房長官の発言は歴史の事実を個人的な見解で覆してしまうものであり、しかも日韓基本条約という日本と韓国の間の一番根幹に関わる条約を、政府のナンバー2 が否定してしまうことなどあり得ることなのです。補償問題は全て終わっているのに、また新たな問題を引き起こして、一体誰に負担させるつもりなのでしょう。それは間違いなく、国民である我々と我々の子孫なのです。

既に解決済みのものを国民的な合意もないのに、自分の見解で掘り返して、次の世代に新たな負担を押しつける。それぞれの大臣が日本としての歴史認識を持たず、個人的見解で自分達のパフォーマンスを繰り返す。これは民主党政権の性質を端的に表しています。そして、その結果、どんどん国益を破壊しています。まことにとんでもないことです。

幸い、7 月 11 日の参議院選挙により、民主党の独走は止められるようにな

りました。しかし、これから私達が本当に訴えて行かなければならないのは、民主党独走の背景にある間違った歴史認識に対してしっかりと正す発言することです。

金賢姫というテロリストに国賓の待遇をするような言動が繰り返し行われれば、日本は世界の笑いもので、それ以上に問題なのは、日本の国益が損なわれているということです。臨時国会が7月30日から8月6日までの日程で行われます。予算委員会も開かれるようなので、私も機会があればこうした問題を取り上げたいと思います。

今後とも皆様方のご支援よろしく申し上げます。ありがとうございました。